公立大学法人　山口県立大学　大学院
国際文化学研究科国際文化学専攻
　修士課程

Graduate School of Intercultural Studies
Master's Course of Intercultural Studies

岩中　貴裕　IWANAKA Takahiro

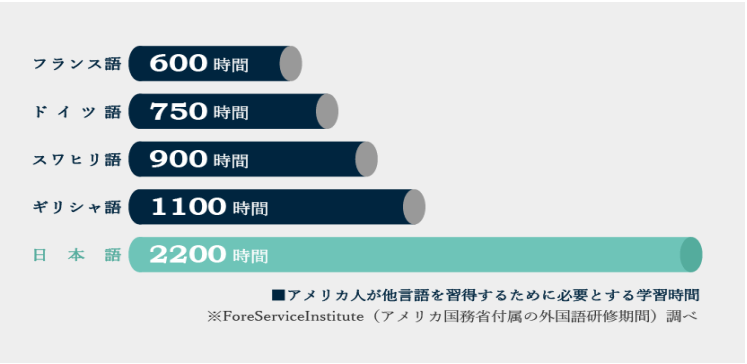
研究分野：外国語教育、第二言語習得
キーワード：言語学習観、動機づけ、Willingness to communicate

研究トピックス：

第二言語習得研究に基づいた効果的な外国語学習方法

研究の要旨：

　第二言語習得研究（Second Language Acquisition）とは、母語でない言語を人間がどのように学習するかということについて、そのプロセスやメカニズムを研究する学問領域のことです。応用言語学の一分野ですが、心理学、教育学、脳科学とも関連の深い学際的な研究分野です。日本では多くの人が英語を学んでいます。しかし、英語に対して苦手意識を持っている人が多いのが現実です。この理由の一つに日本語と英語の言語差が挙げられます。以下のグラフ（https://toraiz.jp/english-times/business-english/3062/）は、英語母語話者がフランス語、ドイツ語、スワヒリ語、ギリシャ語、そして日本語を習得するために必要とされる学習時間を示しています。



　英語母語話者にとって日本語は習得するために莫大な時間がかかることが分かります。視点を変えて考えると、日本語を母語とする我々にとって英語は習得が難しい言語であるということが言えます。残念ですがこの事実は変えることができません。

　しかし、第二言語習得研究によって明らかにされた知見を取り入れることによって、効率良く英語を学習することは可能です。英語を習得する上で、文法と語彙が重要であることを否定する人はいません。しかし、理解可能なインプットに触れる機会、インタラクション及びアウトプット活動に従事する機会がなければ、英語をコミュニケーションのために用いる能力は育まれません。動機づけも学習成果に大きな影響を与えます。学習者の英語コミュニケーション能力の向上をもたらす要因を明らかにする研究に取り組んでいます。

主な関連業績：

岩中貴裕.(2022)「自己評価記述文を用いた話し合い活動－受講生の省察力向上の試み－」久村研・髙木亜希子・山口高領.(編著).『『小学校英語指導者のポートフォリオ』J-POSTLエレメンタリー　教職課程における活用実践』(pp. 23-38). 桐文社.
岩中貴裕.(2021).「教職実践演習によってもたらされる学びと成長－英語教師の専門性－」『四国英語教育学会紀要第 41 号』17-26.
岩中貴裕.(2010).「英語で英語を教えることに関する調査研究－教授言語に対する好みと期待に焦点を当てて－」尾島司郎・藤原康弘.(編著).『第二言語習得論と英語教育の新展開』(pp. 15-24). 金星堂.
岩中貴裕.(2019).「教職履修学生の教授言語に対する好みと期待－英語で行う英語の授業に対する態度－」『中国地区英語教育学会研究紀要第49号』55-64.
岩中貴裕.(2018).「意味重視のアウトプット活動が学習者の教授言語に対する好みに与える影響」『中国地区英語教育学会研究紀要第48号』1-10.

教員紹介へのリンク

教員データベースへのリンク